

WHOセーフコミュニティに 認証された環境で、安心の暮らし



セーフコミュニティとは、WHO(世界保健機関)が推奨する、安心・安全なまちづくりの国際認証制度です。

「けがや事故は偶然の結果ではなく、原因を分析し、対策することで予防できる」という理念のもと、さまざまな活動を行っています。

「就学前児童の転倒予防」「自転車用ヘルメット着用啓発」「元希者エクササイズの普及」等、安全のための取り組みを行っています。

各重点テーマの取り組みとその効果

子どもの安全

0~18歳までの救急搬送件数が...

311件 ▶ **175件** に減少!

- 自宅内での事故予防啓発等を掲載したリーフレットの作成
- 就学前児童の転倒予防



高齢者の安全

認知症サポーター養成講座受講者数は...

のべ **10,559人!**

- 転倒予防を目的とした元希者エクササイズの普及
- 虐待防止の見守り活動
- 認知症サポーター養成講座の実施



交通安全

交通事故件数が...

51.3% 減少!

- 交通安全教室
- 危険箇所への対策
- 自転車用ヘルメット着用啓発



犯罪の防止

刑法犯罪認知件数が...

71.0% 減少!

- 防犯カメラの設置推進
- 夜間の外灯点灯を促す「一戸一灯運動」
- 自転車盗難対策
- 特殊詐欺被害防止啓発



自殺予防

ゲートキーパー養成講座受講者数は...

のべ **2,751人!**

- こころの健康促進講座
- 相談機関の周知
- ゲートキーパーの養成講座



災害時の安全

避難所運営実地勉強会実施校および参加人数

12校 282人

(令和2年より開始)

- 防災訓練
- 家具転倒防止等対策の普及
- 地域の見守り活動



そのほか... 事故やけが等に係る様々な情報から見えてきた地域の課題に対し、これまで行ってきた地域活動や事業を連携させ、その効果を検証しながら継続的に取り組みます。